

新型コロナウイルスの影響でほぼ3月が休校となり、新年度もどうなることかと不安の中、何とか無事に新学期を迎えたと思ったら再び休校となり、皆さんも日常の当たり前のことがこんなに有り難いことだったんだと実感したのではないのでしょうか。なぜ今年こんな事になるのかと不運を悔やむ人もいるかもしれませんが、こればかりは我々にはどうすることもできません。どうすることもできないことに心悩ませても仕方ありません。むしろこの経験を糧に來たるべき日に向けて一日一日を充実させて過ごしたいものです。

さて話は変わりますが、進路指導部は皆さんの進路決定のお手伝いをするところです。あくまでも「お手伝い」ですから、進路決定をするのはもちろん「自分自身」です。その際に必要なものが「情報」です。刻一刻と変化する現代社会において「情報」は最も重要なアイテムの一つです。「情報」は生ものです。鮮度が命です。孫子の兵法の中に「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」というフレーズがあります。ここでいう「敵」は進路先になります。これを知ることが進路実現の第一歩です。そのためにいかに情報を集め活用するかです。そのお手伝いを進路指導部はしますが、その一環として進路通信を発信します。ぜひ「進路」を意識するためのアイテムにしてもらえればと思います。

★進路を決めるということとは？

先日、三年生には話したことですが、進路を決めるということとは「行き方」を決めるということではなく「生き方」を決めるという事です。実際に「進路先」を決めるというのは就職先や進学先を決めるのですが、これはその先にある「生き方」を具現化するためであって、「進路先」を決めることが目的ではありません。自分自身がこれからの人生をどのように生きていくか？そのためには何が必要か？そこを抜きにしては本質的に「進路実現」はできません。そのことをしっかり自覚して自分自身に問い直してみてください。

★進路実現に必要な「力」は？

進路実現に必要な力は？という問いの答えはまずなにより「学力」でしょう。ここでいう学力とはテストで良い点をとるための学力ではなく、いわゆる「考える力」です。「考える」ということはもの作りに似ています。ものを作るには「材料」と「道具」が必要です。考えるにも実は「材料」と「道具」が必要です。その際の「道具」は皆さんの「脳」です。そして「材料」が「知識・情報」ということになります。その材料を仕入れる作業が勉強ということになります。材料がない中でいくら考えようとしても無理があります。ですから誤解を恐れずにいうなら「詰め込む」作業は必要です。ただその際、「詰め込まれる」のではなく、自らに課題を課し、自らの意志で、自らに詰め込むということが重要になってきます。そしてその作業を通じ「考える力」を養っていくことが大事です。ではそれを実行するのはいつか？今です。是非、本物の「学力」を身につけてください。

★見えない「心」を見えるようにしたものが「礼」です。

人間は一人では生きていけない動物です。その人間が進路実現、というより社会生活をおくる上で大切な資質に「コミュニケーション能力」があります。いかに円滑に意思疎通を行うかが生活ひいては進路実現にも重要な要素です。その際の第一歩が「礼」です。礼には「敬礼」「黙礼」など様々ありますが、共通しているのは礼は相手に対して心の内を形にして示すということです。人間にとって最も大切な頭を相手に差し出す行為、これが「礼」です。つまり「私は一番大事なものを差し出すくらいあなたを信頼しています」という見えない心を見えるものとして表しているのです。お互い心のこもった「礼」をすることでコミュニケーションは始まります。どうでしょう？そんなことを考えて挨拶・礼をしていますか？まずは形からでも良いですから丁寧に心のこもった礼をしましょう。

9月入学を考える

新型コロナウイルスの感染拡大阻止のための休校中に世の中は大きな転換点を迎えた観があります。「新しい生活様式」というものがその一つです。これまでの「日常」とは違う「3密」を防ぐ生活様式への転換ということですが、これは果たして定着するか否かは我々の側の意識の問題ですからまだまだ不透明です。一方でいわゆる制度としての転換が模索されているのが学校の「9月入学」です。今後どうなるかはもちろんわかりませんが、もし「9月入学」となれば我々の意識に関係なく歴史的な転換となることは間違いありません。そこで今回は「9月入学」のメリット(利点)・デメリット(課題)を考えてみたいと思います。

★メリット(利点)

①今年に関していえば3月から4月にかけての休校による授業の遅れを解消できるということでしょう。まだ高校は小中学校に比べればそのマイナス面は少ないかもしれませんが(自学自習ができるという前提において)が、小中学校ではその遅れは大きなものでしょう。それを考えると仕切り直しができるということは子ども達にとっては不安が解消されるでしょう。

②本格的な「9月入学」に関していえば、世界基準の学校制度になるということです。世界各国を見ると「4月入学」がむしろ少数派で「9月入学」が多数派です。「国際社会」という視点で考えると今回のこのピンチを契機に「9月入学」にシフトするというのも一考の価値があるということでしょう。

③入学試験の時期が初夏に移行するために、感染症による受験のリスクが軽減されることになるでしょう。今年度の高校入試でもインフルエンザはもちろん、今回のコロナの感染によっては受験できない事態も想定されました。あるいは入試そのものが実施できないかもしれないというリスクもありました。それを考えると受験生のリスクは少なくとも現在よりは軽減されることになるでしょう。

★デメリット(課題)

①制度導入1年目は1学年に2年(正確には約1年半)分の子どもが在学するということになるでしょう。例えば来年から「9月入学」が実施されるとなると、来年度の1年生は今年の4月から来年8月までに入学年(誕生日)を迎える子どもが同じ学年になるということです。これも高校ではさほど大きな差にはならないかもしれませんが、小学校では発達段階の差が大きくなりますので、はたして同じ学年として授業が成立するかということが課題になるでしょう。

②社会の制度改革が行われないと、卒業と入社の時期にタイムラグ(時間のずれ)が発生することになるでしょう。例えば鹿工の卒業生で考えてみましょう。仮に社会の経済システムが現在のままであれば、8月に卒業した場合、入社は翌年の4月ですから約半年高校生でもなく、社会人でもないという不安定な立場となることになります。当然その間収入はありませんのでどうやって生活するかということが問題になります。ですから「9月入学」を実施するには社会そのものが大きく制度改革する、あるいは変化を受け入れるだけの柔軟な対応が必要になるということです。

★その他

メリット・デメリットをいくつか挙げましたが、もちろん他にも色々と予想されます。社会的には会計年度をどうするかということも実際ありますし、学校現場でいえば、行事や各種競技大会などの実施時期や形態など多くのクリアすべき課題が存在します。これらをどうすべきかということは今後議論されると思いますが、今回の事態で生活が大きく変わるかもしれないということは予想されます。今現在の時点で高校に在学する皆さんはまさしく歴史の転換点にいるといえるかもしれません。是非、自分のこととして考えてみましょう。